

日刊 磐城時報

編輯人 岡田 弘成 印刷所 磐城時報印刷所 發行所 磐城時報發行所 廣告料 一行十四字 計金五拾錢 日刊(日曜、祭日)休刊

僅か二ヶ月間で

平町火災損害八萬圓

五ヶ年間の火災統計

無火災は澤渡村のみ

平警察署の調査によれば管内既で、無火災は澤渡村一村である。住五年間の火災度数は八十五回、火災原因は火、電、煙火、不始末、で焼失家屋二百三十七棟、等が大部分で之に次ぎ煙草吹殻、損害四十萬八千四百二十四圓に、燈籠置忘れ等が主なるものであつて、最も損害の多かつたのは鹿島村に大火のあつた昭和四年で損害十六萬二千圓であるが、之を除くと火災の大部分は平町で五年間で十七回、焼失六十六戸八十六棟、損害二十一萬二千六百二十五圓で管内の半分を占めてゐる。而して本年度は平町に火災多し四月、五月と僅か二ヶ月を經過したのみで既に五回、全焼二十七棟三十三戸、損害八萬一千四百四十圓で、太郎所有船資丸は八丈島附近五ヶ年間の損害の半分になつてゐる。平町に次いで火災の多い四倉港に水揚げしたが、相違は内郷村、赤井村、好間村等七割である。

石城産駒検査

石城郡の昭和六年國有種牡馬種付に係る産駒検査は左の日割で行ふ。六月二十三日上遠野種付所、二十四日田人、二十五日澤渡

鯉の豊漁

相場は七割

北海道管内町宇御針内町金物商談と言ふ世にも珍らしい事件、清水孝平方雇人本籍山梨縣北巨原平字堤の内二四佐久間大五郎(三三)は去る大正十四年七月十六日、假名は昨年三月から清水石城郡泉村瀧尻字泉町九四拾次方に住込中郷里が戀しくなり去る長女梅本(二九)を妻に娶月二十三日午前三時頃家人の就り夫婦の仲には長女敏子(七)腹中買溜金拾圓を窃取して逃走次女よし(三)をまうけたが青森で無一文となり三戸町で妻と嫁入りして既に處女ならざる商店の自轉車を窃取して又嫁入りして既に處女ならざる葉那久之濱町迄乗り來り久之に拘らず初婚を装つて妻となり濱町字北町北郷自轉車店に賣却原告の児童を蹂躪したのみならず汽車で歸國しやうとしてゐる最近では母(原告大五郎)を處で北町駐在所國分巡査に發見虐待すること夥しいと云ふ理由で去る二月中途に離婚となり同時に大五郎は永野辯護士を代理人として前記ごと並に其父拾次郎を相手取り平區裁判所に慰籍料千五百圓の請求訴訟を提起す初婚の旨を條件にせないのである。

酌婦に壓倒された 平の遊廓と藝妓

飲食店酌婦は倍加したが 藝妓娼妓は半減

平警察署管内四町二十二ヶ村内八ヶ村に合計三百十軒、飲食の料理店、飲食店等所謂水商賣店は三百七軒で平町の百三十軒の数は貸座敷業平六、湯本一、で約半数を占めてゐる。最も注料料理店は平七十四、小名濱四十目すべき事は最近各町村に於て酌婦が増加した事で、平町の現在酌婦数は百四十四名、水仕を加へると二百名に達し昭和二年度の二倍に達してゐる、之に反し公娼は著るしく減り平三十五名、湯本三名に過ぎず、又藝妓も數年前までは平町のみで八百十名に達してゐたのが現在では魚行商中の同字遠藤きよの魚籠平百一名、湯本二十六名、小名濱十九名で藝妓と娼妓は酌婦を奪取したと發覺三日平署に勢力に壓倒された状態である。檢舉された。

郷里が戀しくなり 主家を逃げた少年

盗んだ自轉車で四倉まで

石城郡内郷村大字宮字代安積郡張検視の結果右は相馬郡鹿島町三和村大字鍋山字仲間屋敷一六字町九七七生れ相馬郡鹿島原生れ無職高橋重四郎(七四)は數町字木皿一九二番地飲食店業高年前から喘息を病み身不自由橋忠次(六二)と判明衣食住にであつたが、五日午前三時頃湯困り悲觀し五日午前一時四十分本町堀坂に居住する實子義郎の頃廣野發上り列車に飛び込み自殺處に行くと稱し出掛け堀坂地内を逃げたものと判つた。常磐線踏切で平着午前三時二十分列車に飛び込み胴体を轢断され即死した、原因は老衰の結果前途を悲觀したためである。

夫婦で 訴訟

平警察署管内四町二十二ヶ村内八ヶ村に合計三百十軒、飲食の料理店、飲食店等所謂水商賣店は三百七軒で平町の百三十軒の数は貸座敷業平六、湯本一、で約半数を占めてゐる。最も注料料理店は平七十四、小名濱四十目すべき事は最近各町村に於て酌婦が増加した事で、平町の現在酌婦数は百四十四名、水仕を加へると二百名に達し昭和二年度の二倍に達してゐる、之に反し公娼は著るしく減り平三十五名、湯本三名に過ぎず、又藝妓も數年前までは平町のみで八百十名に達してゐたのが現在では魚行商中の同字遠藤きよの魚籠平百一名、湯本二十六名、小名濱十九名で藝妓と娼妓は酌婦を奪取したと發覺三日平署に勢力に壓倒された状態である。檢舉された。

四倉驛近況

四倉驛五月中の取扱数左の如し。貨物發送八千七百七十四噸、到着二萬二千六百四十九噸、賃金一萬二千六百六十九圓六十八錢、乗車一萬一千八百五十三人、降車一萬二千三百三十人、賃金三千六百四十四圓二十五錢、手荷物發送二八八個、到着二百七十四個、小荷物發送三千八百八十個、到着五千二百四十七個、賃金壹百四十八圓二十二錢。

財布を盗む

石城郡内郷村大字宮字代安積郡張検視の結果右は相馬郡鹿島町三和村大字鍋山字仲間屋敷一六字町九七七生れ相馬郡鹿島原生れ無職高橋重四郎(七四)は數町字木皿一九二番地飲食店業高年前から喘息を病み身不自由橋忠次(六二)と判明衣食住にであつたが、五日午前三時頃湯困り悲觀し五日午前一時四十分本町堀坂に居住する實子義郎の頃廣野發上り列車に飛び込み自殺處に行くと稱し出掛け堀坂地内を逃げたものと判つた。常磐線踏切で平着午前三時二十分列車に飛び込み胴体を轢断され即死した、原因は老衰の結果前途を悲觀したためである。

老人飛込み自殺 綴る久之濱で 病苦と生活苦から

石城郡内郷村大字宮字代安積郡張検視の結果右は相馬郡鹿島町三和村大字鍋山字仲間屋敷一六字町九七七生れ相馬郡鹿島原生れ無職高橋重四郎(七四)は數町字木皿一九二番地飲食店業高年前から喘息を病み身不自由橋忠次(六二)と判明衣食住にであつたが、五日午前三時頃湯困り悲觀し五日午前一時四十分本町堀坂に居住する實子義郎の頃廣野發上り列車に飛び込み自殺處に行くと稱し出掛け堀坂地内を逃げたものと判つた。常磐線踏切で平着午前三時二十分列車に飛び込み胴体を轢断され即死した、原因は老衰の結果前途を悲觀したためである。

平消防組演習

平消防組では三日午後二時から平署防組では三日午後二時から平署會議室に幹部會を開き最近の火災頻發と超過保險に關聯しての實情に鑑み各種々協議を凝らし火防協定の變更をなす十日火日久之濱線工坂本三郎氏防宣傳演習をする事になつたが發見し四倉署より神長部長出これとともに火防組合でも全町

ナンセンス二題

四倉警察署 菅原生

四倉町字新町の海岸に面した長屋に住むKと呼ぶ按摩さん陽氣のせいのか足の付根に腫物が出たので賣藥治療を行つたが腫物は破れた。或る日の眞晝頃妻の里に例の濕布治療を命じた妻は、慣れた勝手から藥鍋を持ち出し火鉢にかけた。湯がわいたのでガーゼを浸して熱い計りに絞つたのを付根の患部に健氣にも手探りにてあててあつた。瞬間時ならぬ聲が痛いく、と悲鳴驚いたのは妻、君黒味

讀者論談

士に即した 文藝に就きて

「黒土」編輯部 吉澤 健 (四) 言換すれば、農民を描いて事足りるものでは、農民文藝とは言ひ得ない。少くとも土の魂、土の持つ苦惱と力、そして明瞭でなければならぬ。今迄閉鎖されてゐた農民文學が不景氣の時に於て意識的の叫びの高くなつたのは一何れを物語つてゐるか? 吾等はそれによつてどんな事を考へなければならぬか? それは斯くした不況に際して解らなかつた農民の屈辱的、犠牲的生活が、果して見逃して好いのであつたか? どうか

高者だが目に一丁字無いのが玉に疵だつた。或る冬の午後女房お常どのがアンタ葉書だよと夫の前で言つた。ウんどうなつたが又役場から女房が隣家に廻した。舟方特有の悪戯心より次から次へ傳言された。手元に戻つた時長屋の百科全書とニツクネームで通る熊公より、〇月八日午前九時四倉警察署に出頭すべしとの呼出状だせと聞かされた吉さん、チエー恐い呼出状を同僚とは熊手の様な手て頭をかいた。余りに氣廻り過ぎたボタモチ判からの早合點!

武者人形 特價賣出し
御座敷幟

金太郎玩具店

戦勝のた節句に相應しい尙武氣豊かな武者人形を始め三勇士、及び勇ましい甲冑敷を豊富に取揃へて特價販賣を致します。どうぞ御来店を御待ち致して居ります。

◎戦勝の節句にふさわしい勇ましい尙武者人形……
凱施桃太郎、鐵甲金太郎、等々
新形人形取揃へました。

五月梓飾りセツト

◎東京一流名工作品オンパレード
◎外 幟。大布鯉。一式大特賣

フクタヤへ

吉田眼科病院

平町紺屋町 電話六八番

端午の節句の御祝品に

戦勝人形や武者人形

甲冑、陣笠、太刀、太鼓……

当店獨特のセツトを御覽下さい

御座敷幟に外幟布大鯉等々

澤山取揃へてあります。

御座敷幟セツト 金四四圓ヨリ

武者人形 金四十五圓ヨリ

金太郎 金四十圓ヨリ

外幟二巾 金一圓三十圓ヨリ

スガノヤ提灯店

電話九五番

公債 高價買入
勸業債券

電話賣買

御一報次第店員參上可仕候

平町五丁目二二

佐々木株式会社

電話二五三番

和洋銅鐵金物問屋

釜屋商店

諸橋久太郎

電話九九番

優等賞入選

芳醇銘酒



キユノバクハ

去る十八日より二十日迄平稅務署に於て開催されたる石城酒造組合主催第十三回清酒喇酒會に於て三點とも最優等賞を得たり。

平町二丁目一

白馬の雪營業所

辰の口本家 松本徳一

電話二八五番

計免巨大藏大 共存共栄

磐城無盡

誠意堅實 儲蓄

腸胃 専門 内科

松村村 腸胃性 腸病

皮膚病 専門 皮膚科

院醫科 (七〇一話電) 町南町平

心安積蓄 利低通融

三幸無盡

許免巨大藏大

社會盡無用信本湯

番七四話電

魚清自慢の
特製 みつ豆

例年の通り始めました
多少に拘はらず—出前迅速

平町二丁目
魚清食堂部
電話六三三番

小學生用防水マント

入學進級のた子様方、
完全なツルヤの
防水マントを
耐久三年以上

二尺二寸 一圓四十錢
二尺四寸 一圓六十錢
二尺四寸 壹圓八十錢

中ゴム合セ別誂マント
進入生用

男 二圓三十錢
女 二圓三十錢

平四 ツルヤ電一四〇

貸切御用命ハ
セヒ 三井自動車部へ

電話六八五番

乗合は 好間合戸・澤渡方面行

平看護婦會

會長 清野キヨ

平町字南町 電話三〇七番

看護婦派出の需めに應じます